

令和3年度 金沢型学習スタイル実践推進事業 報告書

安原小学校	重点課題推進校	教科一般（地域人材の活用）
-------	---------	---------------

1 研究の重点と具体的な取組

重点 地域の人材を活かした単元構成

安原校区にある豊富な「ひと・もの・こと」とかかわった単元構成を工夫することで、児童の学習意欲を高める。

(1) 研究授業の実施

- ・本時での人材の活用方法や、単元構成の工夫を検証するために、低・中・高の分科研究会で計15本の研究授業を行った。教科の内訳は、社会科7本、生活科3本、国語科1本、英語科1本、音楽科1本、総合的な学習の時間1本、自立活動1本である。

(2) 児童アンケートの集計・分析

- ・児童の意識の検証をするために、学期末に児童による自己評価を行った。

2 取組の検証

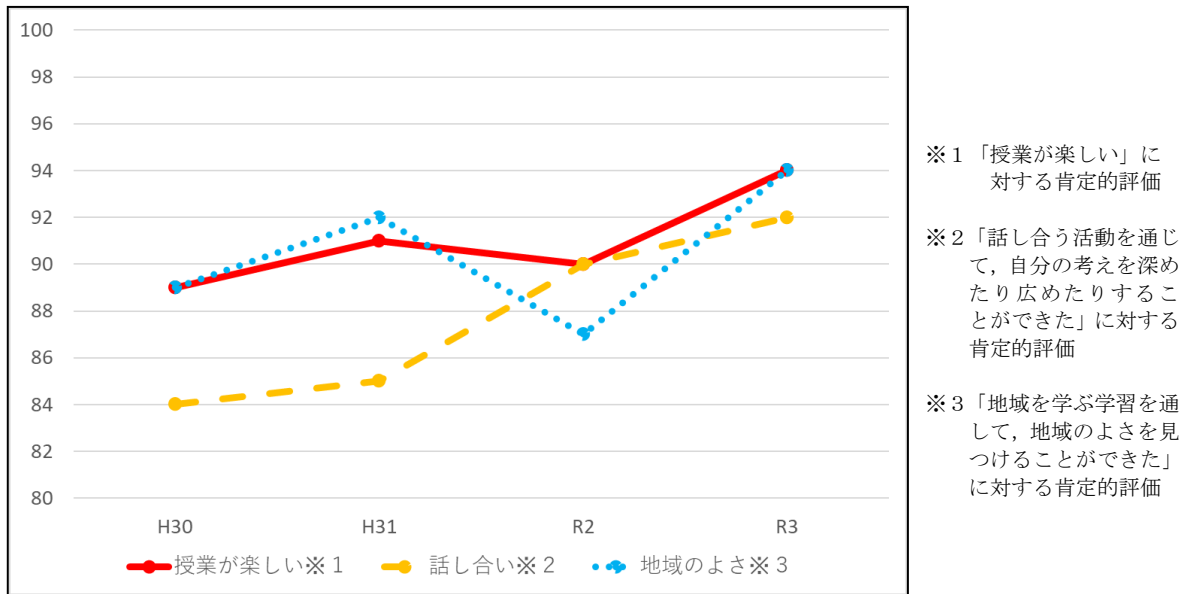
(1) 研究授業の結果

- ・人材の活用方法としては、「学習への意欲を高める活用」「考えを持つための資料としての活用」「予想の検証資料としての活用」といった3つの活かし方があった。
- ・単元構成の工夫としては、「単元を通したかかわり」「教科をこえたかかわり」「複数の人材のかかわり」「発展的なかかわり」といった4つのかかわり方の工夫があった。

(2) 児童アンケートの結果（今年度）

	肯定的評価の割合	
	9月	12月
授業が楽しい	92.9%	94.0%
授業では、自分で考え進んで取り組むことができた	90.3%	90.4%
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができた	89.1%	91.6%
学習を通して、自分が成長したなど感じる事ができた	90.9%	91.9%
地域を学ぶ学習を通して、地域のよさを見つけることができた	94.6%	94.0%

### (3) 児童アンケートの結果（4年間の推移）



## 3 成果と課題

### (1) 成果

平成30年度より継続してきた地域人材を活用した授業実践のブラッシュアップを進められたことで、人材の活用方法や単元構成の工夫が整理でき、コロナ禍においても地域人材とかかわりが持てるように工夫することができた。また、児童アンケートの結果から、「授業が楽しい」と感じたり、話し合いのよさを感じたりする児童が増加しており、学習意欲の高まりが見られる。これらのことから、安原校区にある豊富な「ひと・もの・こと」とかかわった単元構成を工夫することで、児童の学習意欲を高められたと考えられる。次年度以降も地域人材を活用した実践を続けていきたい。

### (2) 課題

教材研究が進んだ一方で、授業場面での児童同士のかかわりが少ないことが課題としてある。これは、教師の教えたい・気づかせたいという思いが先行し、教師主導の授業になってしまったためと考えられる。児童の知りたい・聞きたい・伝えたいという思いを大切に、教師の出場を考え、児童同士の対話がさらに増えるような手立てが必要である。